

## 特集：入学

## 大学の歩き方

澤村 京一（筑波大学 生命環境科学研究科）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。4月8日のオリエンテーションではじめて皆さんにお会いしましたが（入試のときに試験監督としてお目にかかっていたかもしれません）、熱心に学類長やカリキュラム委員長のお話を聞いておられる姿を拝見して、皆さん本当に期待を胸に筑波大学にいらっしゃったのだなと実感しました。どうかこの初心を忘れることなく、大学生活の4年間（プラス・アルファ？）をお過ごしください。

学類生の担任を受け持つのは初めてですので、この機会に私自身が大学に入学したころのことを振り返ってみました。つい最近のことだと思っていたのですが、皆さんが生まれるよりもずっと前の話です。入学式当日、皆さんと同じように科目案内など一式を受け取って下宿に帰りました。理系の1年次は今と同じでカリキュラムがほぼ自動的に決まっておき、自分で選択できる科目は限られていましたが、聞いたこともないような科目名が並んでいて（印象に残っているのは「相撲」・「自動車（体育）」・「芸能研究」・「落語鑑賞」）、帰りの電車の中でわくわくしながら眺めていた覚えがあります。皆さんも面白そうな科目を探してみてください。生物の専門以外でもきっと気になる科目が見つかるはずで、それが総合大学のいいところです。ちなみに私はサークルの先輩に誘われて、経済哲学のセミナーに参加して、社会進化論について議論したりしていました。また、こちらは途中でドロップ・アウトしてしまいましたが、新種に学名を付けるのに役立つだろうと、ラテン語の授業にも顔を出しました。

オリエンテーションでは皆さん活気があるのに驚きました。3クラスでは自己紹介をかかて、好きな生き物とお薦めの本をあげてもらいました。正直言って、これまで皆さん受験勉強で精一杯でしたでしょうし、若者は本を読まなくなっていると言われていきますので、答えに困るか危惧していたのですが、まったくそんなことは感じられませんでした。生き物好き、本好きが多いというのは頼もしく、とても嬉しいことです。

幸い筑波大学は自然環境に恵まれています。構内には植物見本園や兵太郎池もありますし、ちょっと足をのばせば豊里ゆかりの森や筑波山です。構内（一の矢学生宿舎や農林技術センターのあたり）でキジの鳴き声はもう耳にしましたか？そろそろ今年もホトトギスが鳴き始めるかもしれません。また、下田臨海実験センターや菅平高原実験センターでの実習に参加する人や個人的に野外活動をする人もいるでしょう。とにかくいろんな生き物を観察してください。そのとき自分の好きな生き物を中心にして、何かのテーマをもって記録に残すといいと思います。野帳を1冊準備しておくのもいいかもしれませんね。私は大学生のとき、瓦礫の下にいる地味な甲虫に的を絞って採集し、年に1回は環境庁（当時）から許可をもらって高山帯での分布調査をやっていました。そのときの記録（要は単なる採集リスト）は同好会誌に載せましたが、学会デビューしたような気分でした。

野外活動をするときにはどうしても似たような趣味の人と行動をとりにしがちですが、ぜひ自分とは違った生き物に興味をもっている人と一緒に野外へ出てみてください。私は野外へ行って調子が出てくると、葉っぱの裏や石の下にいる昆虫が見えてくる（気配を感じる）タイプの人間です（何も知らない同行者には驚かれます）。しかし、植物などは「草」とか「木」としか認識できておらず（昆虫の食草であればある程度わかるのですが）、植物に詳しい人と同行してはじめてその多様性に気が付きます。皆さんもそうすることで、これまで見えなかったものが見えてくるはずです。さらには、生き物以外のことに興味をもっている人のグループに加わると、ますます視野が広がることでしょう。そのときに生物学の視点ではこのように考えられる、といったことが相手にうまく伝えられるよう、また議論できるようになりたいものです（自戒の念もこめて）。

ところで、筑波大学の図書館は蔵書数や分野のバリエーションという面で充実しています。また、中央図書館に蔵書が集まっているというのも長所です。大学によっては専攻や講座に附属図書館があって、蔵書は分散しています。皆さんはぜひこれを有効に活用してください。幸い図書館は夜10時まで開いています。つくば市内に下宿している人は日没後の時間をもて余すかもしれません（毎日が飲み会というわけにもゆかないでしょう）ので、暇があったら入り浸るといいでしょう。また、電車通学の人も図書館で本を借りてきて、往復の時間に読んでみるといいと思います。最近では通学中に授業の予復習をやっている人も見かけますが（しかも、何かを暗唱しているような雰囲気）、大学生は中学生とは違いますので、もっと幅広い視野をもってもらいたいものです。そのためにも、在学中に読書の習慣を身に付けることを強くおすすめします。インターネット等の発達で大量の情報がいつでも簡単に手に入るようにはなりましたが、ものごとを系統立てて理解するためには読書にまさるものはありません。

フレッシュマン・セミナーで時間がありましたら、皆さんが観察した生き物や読んで感動した本の話をお聞かせしてもらいたいと思います。

Contributed by Kyoichi Sawamura, Received April 14, 2010.